NARITA DE CONTROLLA DE CONTROLL

発行/成田市農業委員会 編集/成田市農業委員会だより編集委員会 電話/0476-20-1573 第53号 令和元年10月1日発行





期待の新規就農者!

堀川一宙さん(西大須賀)は、3年弱の研修期間を経て、平成28年に独立、新規就農し、奥様と二人で蓮根を 生産しています。

取材に伺った時は、蓮根の出荷が始まったばかりでした。出荷は7月から始まり、3月まで続くそうです。蓮根の生産は、管理・収穫作業の多くが水田の中に入っての作業となり、大変な面もありますが、頑張った分だけよい作物の生産につながるので、やりがいがあると話してくれました。栽培方法のこだわりは、堆肥による土づくりと農薬を極力使用しないこと。安心安全な蓮根を消費者に届け、「おいしい」と言ってもらえることを目指しています。

今はまだ勉強中で、生産が安定しないなどの課題もある そうですが、安定生産と規模拡大を目指して、頑張ってい ます。

堀川さんの水田には蓮の葉の間に大きな白い花も咲いていました。花は7月から8月が見ごろとのことです。

市内では、蓮根の栽培面積が増えているので、皆様も見かけることが増えるかもしれませんね。

主な内容

P1…期待の新規就農者

P2…農業青年団体の紹介

P3…成田市農業委員会先進地視察研修会の報告

堀川さんの水田の蓮根の花

P4…令和元年度の目標及び活動計画、編集後記

本市で活躍している農業青年団体を紹介します。

成田市内では本市の農業の未来を担う多くの青年農業者が活躍しており、地区ごとに農業青年 団体も組織され、様々な活動を行っています。今回は成田市農業青年会議所を紹介します。

成田市農業青年会議所

成田市農業青年会議所は、旧成田市の青年農業者を中心に組織されており、昭和50年より活 動を開始し、今年で45年目を迎えます。現在の会員は18歳以上45歳未満の青年農業者22 名で、水稲、野菜、果樹など様々な農業経営を行っています。

主な活動内容

見が関係機関・団体に届けられました。

主な活動としては、先ず成田市で活動を行う他 の農業青年団体と、市、県、農業協同組合、農業 共済組合などの関係機関・団体が、成田市の農業 の発展につなげることを目的に意見交換を行う、 「成田市農業青年 農政座談会」を開催していま す。平成30年度は「農産物の鳥獣被害の対策に ついて」や「新規就農者への支援について」など



農政座談会の様子

次に、各分野の先進的な事例を視察する「成田市農業青年団体 先進地視察研修会」を実施して います。農業青年が先進的な事例を視察することで自身の農業経営の改善につなげることを目的 にしています。平成30年度は、静岡県にGAP (農業生産工程管理)の認証を取得し、ブラン ド化、6次産業化なども実施している農業法人などを視察し、自身の経営を見直すきっかけを得

ることができました。



先進地視察研修会の様子

その他に地元で開催される産業祭などのイベン トに参加しています。農産物が当たる輪投げ大会 や地元農産物の即売を実施し、地元農産物のPR や都市農村交流にも努めています。

一緒に活動しませんか!

成田市農業青年会議所では、このような活動に 一緒に取り組む青年農業者を募集しています。興 味のある方は事務局までご連絡ください。

□問い合わせ先 成田市農業青年会議所事務局(成田市農政課内)

Tel: 0476-20-1542

成田市農業委員会先進地視察研修会の報告

令和元年7月16日から18日までの3日間、農業委員7名、農地利用最適化推進委員8名による先進地視察研修会を実施しました。

有限会社吉川農園

16日は、熊本県合志市の有限会社吉川農園を 視察しました。社長の吉川さんは「農業はやり方 次第で必ず儲かる」をモットーに、しそ(大葉) の生産・加工・海外輸出に取組み、農林水産大臣 賞を始め、数多くの賞を受賞しております。ま た、吉川さんは合志市の農業委員でもあることか ら農業委員会の事務局長にも参加して頂き、農業 委員会の活動についても意見交換しました。



有限会社吉川農園の視察

アネット有限会社

翌17日には、鹿児島県鹿屋市のアネット有限会社を視察しました。会長の尾曲さんは、早くからさつまいもやしょうがを原料とした6次産業を手掛け、また、有機JAS認証の取得やさつまいもやイチゴのウイルスフリー苗の安定生産・供給などにも取り組み、農産物の高付加価値販売や農業経営の多角化・高度化による安定的な経営を行っています。

株式会社くしまアオイファーム

午後からは、宮崎県串間市の株式会社くしまアオイファームを視察しました。さつまいもにキャラクターを結び付けた独自ブランドによる販売を手掛け、生産・加工・販売を自社で一貫して行っています。会社の行動指針に「モテる大人になれ」とあり、社員全員が明るくハツラツと働く姿が魅力的でした。社長の池田さんの即決力と大胆な構想が会社を支えています。



農事組合法人きらり農場高木の視察

農事組合法人きらり農場高木

翌18日は、宮崎県都城市の農事組合法人きらり農場高木を視察しました。343名の農業者などから出資を受けて設立した法人で、馬鈴薯、大豆、露地野菜など作物別に団地化してブロックローテーションするという高度な輪作体系を確立しています。JAを通じた食品会社との契約栽培で安定的な経営を実現し、また、女性理事が中心となった加工班が"がね"(かき揚げ)やコロッケなどを作り、道の駅などで販売しています。

視察を終えて

九州地方では東京などの大消費地には遠く輸送費が掛かりすぎてしまうなど、立地条件が悪いことから6次産業化や海外への輸出が進んだようです。どの代表者も情報収集能力に長け、より良い待遇を求め、付加価値を付けた農産物の販売などに取り組んでいるとのことでした。地域の中心となる経営体が活躍することで、産地が活性化している例を視察することができ、本市でもこのような中心経営体を育成することが産地の維持・発展において重要であると感じました。

令和元年度の目標及び活動計画を策定しました。

成田市農業委員会では、農業委員会等に関する法律第37条の規定により、農地等の利用の最適化の推進の状況、そのほか農業委員会における事務の実施状況について公表します。

令和元年度の目標及び活動計画

①担い手への農地の利用集積・集約化

・目標 集積面積 2,967 h a (うち新規集積面積 147 h a)

・活動計画 農業委員によるあっせんや(公財)成田市農業センターやかとり農業協同組合 が実施する農地利用集積円滑化事業への支援を継続するとともに、農地中間 管理機構の事業に対しても積極的な支援を行い、規模拡大に必要な農地利用 集積の促進及びヤミ耕作の解消に努める。

②新たな農業経営を営もうとする者の参入促進

- ·参入目標数 5 経営体 参入目標面積 4 h a
- ・活動計画 新規就農者へ農地情報を提供し、就農後においても情報提供などの支援を行 うことにより、就農定着を図る。

③遊休農地に関する措置

・目標 遊休農地の解消面積20ha

・目標設定の 平成30年度の利用状況調査で、草刈等で解消可能な遊休農地が405ha 考え方 あり、そのうちの5%の解消を目指す。

・活動計画 農地利用最適化推進委員が担当地区の全農地について現況確認作業を実施する。特に過去の調査で遊休農地となっていた農地については、重点的に現況 確認を実施する。また、利用状況調査の結果により新たに発見した遊休農地 について、利用意向調査を実施していく。

④違反転用への適正な対応

・活動計画 農地違反転用防止対策強化特別月間を中心に以下を実施する。

①市広報紙への記事掲載による啓発

- ②違反転用防止リーフレットの配布
- ③違反転用防止パトロールの実施
- ④特別月間の期間外に発行される、農業委員会広報紙による啓発



詳細な農業者年金の内容やご相談については、最寄りのJAか農業委員会または農業者年金基金にお問い合わせ下さい。

独立行政法人農業者年金基金 電話 03-3502-3942(企画調整室)

編集後記 彼岸もすぎ、爽やかな風を感じる季節となりました。

7月に先進地視察研修会で南九州3県を訪問した様子を載せさせて頂きました。南九州といえばさつまいも、そして、芋焼酎。水はけの良いシラス台地で生産されたさつまいもの多くが焼酎やデンプン用に加工され、青果向けの出荷は少ないとの事でした。

「秋の夜長に現地にて買いたる焼酎を二人静かに飲む あゝ美味なり」

成田市でも後継者のいない農家が大量にリタイアする時代を迎えています。一度も農業に携わることなく、他産業に就職した相続人は農地法や農村環境はわかりにくいかもしれません。 農地に関する相談などは農業委員、農地利用最適化推進員にお気軽にご相談ください。

編集委員 秋山 皓一